

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3551		
科目名	安全保障論 1（国際安全保障）		
担当教員	小谷 賢		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 4		
講義室	1207	単位区分	選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門科目		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1-E 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し、利用することができる。 D P 4-I 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門技能（40%） F 1 探求と論拠（30%） I 1 理解・分析と読解（20%） I 3 情報分析（10%）		
教員の実務経験	2004年から2016年まで防衛省防衛研究所において、安全保障・戦史の研究、教育に携わった。		
成績ターゲット区分	成績ターゲット区分 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	国際社会における安全保障の問題を、暴力や戦争、テロリズムの問題などについて、歴史や国際制度の観点から考察していきます。最近の人類史の研究によると、人間は有史以前、お互いの暴力によって25%もの割合で死傷したそうです。第二次大戦の死傷率が3%であったことを考えるとこれは相当な割合だといえます。しかし逆に言えば、人類は戦争や争いの歴史を通じて、安全保障を実践として学び、戦争を未然に防いだり、また戦争が生じても死傷率を抑えることに成功してきたともいえるでしょう。特に冷戦時代は核抑止によって、大規模な総力戦を回避してきましたが、逆に冷戦後は、イデオロギーに抑え込まれてきた民族意識が先鋭化し、9.11テロに代表されるような国際テロが頻発する時代となりました。最近では「新しい中世」や「新しい戦争」のような不安定な世界に突入しつつあるとも言われています。世界的に内戦が多発し、低強度紛争が増加する中で、人間の安全保障という新しい価値観が模索されています。国際的な観点から世界の戦争や紛争、テロリズムをどのように捉えるべきなのか、理論的かつ具体的に考察していきます。 授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型）を取り入れます。 （キーワード）戦争・安全保障・危機管理・国際情勢		
授業の趣旨	■ 副題 今も世界各地で紛争やテロが生じている。本講義ではなぜ争いが生じるのか、またそれをいかに解決していくのかについて学ぶ。 ■ 授業の目的 古今東西の戦争や紛争を学ぶことで、安全保障の分析枠組みや概念について学んでいく。 ■ 授業のポイント		

	まずは有史以来の戦争や暴力の歴史を振り返る。中世の欧州における宗教戦争は凄惨なものであったため、それをどのように制御したのか、またその後どのような弊害が生じたのかを検討していく。近代以降は国家による軍隊の制度化、また兵器の近代化によって、戦争が始まると死傷者が増えていくことになり、その頂点が第二次世界大戦である。その後は核兵器の相互抑止によって大国同士の戦争は行われなくなるが、局地的な代理戦争は頻発し、それは冷戦後も続くことになる。冷戦後は民族対立の側面が強調され、これは中世の宗教戦争を彷彿とさせる凄惨なものとなりつつある。まずは人類と戦争について歴史的な知識を身に付けることを目的とする。次に歴史的な知識を前提としつつ、集団安全保障のモデルや、政軍関係、戦争と平和の理論、国連と安全保障、文明の衝突論、非国家主体による安全保障論、といった安全保障の理論的な知識を習得する。												
総合到達目標	・戦争の歴史を学ぶことで、勢力均衡や同盟、囚人のジレンマといった安全保障の基礎概念を学び、それを現在の国際問題にも応用できるようにする。 ・戦争が国際関係や社会、経済、技術に与えた影響はどのようなものであったかを説明できるようになる。 ・政策決定者の戦争指導から危機管理の本質を学ぶ。一個人として感情的に戦争やテロを見るのではなく、政策決定者や危機管理担当者の視点から考えられるようになる。												
成績評価方法	以下の方法で総合的に評価する。 (適用ルーブリック：割合) E1－70%, I3－30% (成績評価手段) リアクションペーパー×2(専門知識の理解について)：40%, レポート(専門知識の応用、与えられた材料による情報分析)：50%, 授業参加度：10% (フィードバック方法) 授業時間中に解説を行う。												
履修条件	選択必修のため特になし。												
履修上の注意点	できる限り新聞やニュースに接することで、今も世界のどこで争いやテロが起こっているのか関心を持つことが重要。												
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ オリエンテーション、戦争と暴力、安全保障の概念について。 ②授業概要 今後の授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明を行う。安全保障論を学ぶための心構え、学習方法や研究方法についても指導する。また安全保障を学ぶにあたって、最初に安全保障の対象となる暴力や戦争をどう定位するか。暴力の諸相を歴史的に提示し、安全保障研究が研究対象とする暴力や戦争について説明する。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』第1章を読んで、法的な規制がない場合、隣人の暴力をいかに規制すれば良いか考えてくる。 ④復習(120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』第2章を読んでおく。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 古代の戦争：ギリシャ、ローマ、中国 ②授業概要 古代の戦争はどのような様相だったのか見てみよう。戦争を考える上では、兵力、戦術、武器、戦略、兵站、輸送力、そして政治外交といったものが重要になってくる。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(240分) トウキデテス『戦史』を読んで、ペロポネソス戦争について調べてみる。同書は今でも安全保障の古典になっている。 ④復習 特になし。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 中世ヨーロッパの戦争 ②授業概要 イスラムの覇権に対するヨーロッパの台頭。中世の温暖化という自然環境の変化や、重騎兵、パイク、クロスボウといった武器が戦争に与えた影響について。武力で勝ち取られたスイスの独立。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(120分) 中世ヨーロッパの「正戦論」について調べてみよう。 ④復習(120分) マイケル・ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』を読む。 </td></tr> <tr> <td>4</td><td> ①授業テーマ 宗教戦争の時代 ②授業概要 15-16世紀の宗教戦争の時代では、隣人であっても信じる宗教が違えば殲滅の対象となった。そしてヨーロッパ史上最大の宗教戦争である30年戦争の結果、近代国家が誕生したのである。宗教戦争が苛烈になった原因とウエストファリア体制について。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(120分) マクニール『戦争の世界史 上』の第4－5章を読んで、宗教戦争を調べてくる。 ④復習(120分) 国際政治でよく用いられる「ウエストファリア体制」について自分なりに纏めてみる。 </td></tr> <tr> <td>5</td><td> ①授業テーマ 戦争遂行装置としての国家 ②授業概要 国家システムは、宗教戦争を緩和させるために生み出されたが、ヨーロッパの国民国家は経済力と軍事力によって戦争を制度化し、次の戦争に備えるための戦争遂行装置となっていた。その結果、ヨーロッパはその他の地域に対する圧倒的な軍事 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ オリエンテーション、戦争と暴力、安全保障の概念について。 ②授業概要 今後の授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明を行う。安全保障論を学ぶための心構え、学習方法や研究方法についても指導する。また安全保障を学ぶにあたって、最初に安全保障の対象となる暴力や戦争をどう定位するか。暴力の諸相を歴史的に提示し、安全保障研究が研究対象とする暴力や戦争について説明する。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』第1章を読んで、法的な規制がない場合、隣人の暴力をいかに規制すれば良いか考えてくる。 ④復習(120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』第2章を読んでおく。	2	①授業テーマ 古代の戦争：ギリシャ、ローマ、中国 ②授業概要 古代の戦争はどのような様相だったのか見てみよう。戦争を考える上では、兵力、戦術、武器、戦略、兵站、輸送力、そして政治外交といったものが重要になってくる。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(240分) トウキデテス『戦史』を読んで、ペロポネソス戦争について調べてみる。同書は今でも安全保障の古典になっている。 ④復習 特になし。	3	①授業テーマ 中世ヨーロッパの戦争 ②授業概要 イスラムの覇権に対するヨーロッパの台頭。中世の温暖化という自然環境の変化や、重騎兵、パイク、クロスボウといった武器が戦争に与えた影響について。武力で勝ち取られたスイスの独立。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(120分) 中世ヨーロッパの「正戦論」について調べてみよう。 ④復習(120分) マイケル・ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』を読む。	4	①授業テーマ 宗教戦争の時代 ②授業概要 15-16世紀の宗教戦争の時代では、隣人であっても信じる宗教が違えば殲滅の対象となった。そしてヨーロッパ史上最大の宗教戦争である30年戦争の結果、近代国家が誕生したのである。宗教戦争が苛烈になった原因とウエストファリア体制について。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(120分) マクニール『戦争の世界史 上』の第4－5章を読んで、宗教戦争を調べてくる。 ④復習(120分) 国際政治でよく用いられる「ウエストファリア体制」について自分なりに纏めてみる。	5	①授業テーマ 戦争遂行装置としての国家 ②授業概要 国家システムは、宗教戦争を緩和させるために生み出されたが、ヨーロッパの国民国家は経済力と軍事力によって戦争を制度化し、次の戦争に備えるための戦争遂行装置となっていた。その結果、ヨーロッパはその他の地域に対する圧倒的な軍事
回	内容												
1	①授業テーマ オリエンテーション、戦争と暴力、安全保障の概念について。 ②授業概要 今後の授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明を行う。安全保障論を学ぶための心構え、学習方法や研究方法についても指導する。また安全保障を学ぶにあたって、最初に安全保障の対象となる暴力や戦争をどう定位するか。暴力の諸相を歴史的に提示し、安全保障研究が研究対象とする暴力や戦争について説明する。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』第1章を読んで、法的な規制がない場合、隣人の暴力をいかに規制すれば良いか考えてくる。 ④復習(120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』第2章を読んでおく。												
2	①授業テーマ 古代の戦争：ギリシャ、ローマ、中国 ②授業概要 古代の戦争はどのような様相だったのか見てみよう。戦争を考える上では、兵力、戦術、武器、戦略、兵站、輸送力、そして政治外交といったものが重要になってくる。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(240分) トウキデテス『戦史』を読んで、ペロポネソス戦争について調べてみる。同書は今でも安全保障の古典になっている。 ④復習 特になし。												
3	①授業テーマ 中世ヨーロッパの戦争 ②授業概要 イスラムの覇権に対するヨーロッパの台頭。中世の温暖化という自然環境の変化や、重騎兵、パイク、クロスボウといった武器が戦争に与えた影響について。武力で勝ち取られたスイスの独立。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(120分) 中世ヨーロッパの「正戦論」について調べてみよう。 ④復習(120分) マイケル・ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』を読む。												
4	①授業テーマ 宗教戦争の時代 ②授業概要 15-16世紀の宗教戦争の時代では、隣人であっても信じる宗教が違えば殲滅の対象となった。そしてヨーロッパ史上最大の宗教戦争である30年戦争の結果、近代国家が誕生したのである。宗教戦争が苛烈になった原因とウエストファリア体制について。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習(120分) マクニール『戦争の世界史 上』の第4－5章を読んで、宗教戦争を調べてくる。 ④復習(120分) 国際政治でよく用いられる「ウエストファリア体制」について自分なりに纏めてみる。												
5	①授業テーマ 戦争遂行装置としての国家 ②授業概要 国家システムは、宗教戦争を緩和させるために生み出されたが、ヨーロッパの国民国家は経済力と軍事力によって戦争を制度化し、次の戦争に備えるための戦争遂行装置となっていた。その結果、ヨーロッパはその他の地域に対する圧倒的な軍事												

	的優位を獲得。植民地支配へ乗り出す。授業の最後に確認テストを行う。解説は次回の講義で行う。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習 (120分) これまでの講義内容を配布資料を基に纏めてくる。 ④復習 (120分) マクニール『戦争の世界史 上』第6章を読む。
6	①授業テーマ 勢力均衡策の失敗と総力戦の萌芽 ②授業概要 ナポレオン戦争以降、ヨーロッパはウィーン体制の下、比較的安定した時代が続いたが、19世紀後半になるとドイツ・イタリアの統一により、普仏戦争や建艦競争など再び戦争の時代へと突入することになる。また20世紀に入ると、ハーグ戦時法など戦時の違法行為を定めた国際法が成立した。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習 (120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』の第2章を読んでくる。 ④復習 (120分) この時代になぜ戦時国際法が成立したのか、講義中に配布された資料を読みながら考えてみる。
7	①授業テーマ 第一次世界大戦 ②授業概要 ドイツの野心、フランスの敵意、ロシアの膨張欲、イギリスの懸念、オーストリアの恐怖感によって第一次世界大戦という未曾有の戦争が戦われることになった。世界初の本格的な総力戦によって、2200万人もの死傷者が生じたという。なぜ戦争を防ぐ事ができなかったのか、そして戦争の実態について講義を行う。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習 (120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』の第3章を読んでくる。 ④復習 (120分) 総力戦という言葉について纏めてくる。
8	①授業テーマ 戦間期の国際政治 ②授業概要 凄まじい人的被害と破壊を起こした第一次世界大戦への反省から、戦後は平和が希求された。それらは、ヴェルサイユ条約やパリ不戦条約、集団安全保障体制の導入や海軍分野での軍縮会議である。他方、次の戦争に備えるリデル＝ハートやフラー、ドゥーエのような軍人・戦略思想家なども少なからず存在した。1930年代に入ると平和への幻想は消え、再び時代は軍拡と対立へと回帰していく。そしてヨーロッパ諸国はナチスドイツの権力掌握と再軍備に対する対処（balancingとbandwagoningの混同）を誤り、再び戦争が始まるのである。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習 特になし ④復習 (240分) E.H.カー『危機の二十年』を通読する。
9	①授業テーマ 第二次世界大戦 ②授業概要 第二次世界大戦の最大の特徴は、戦争がイデオロギーや人種を軸に戦われたことである。これは中世の宗教戦争にも通じる。国家は宗教戦争の緩和のために編み出された装置であるが、今や世界は再び憎しみによって戦うことになった。その結果、スターリングラードの戦いでは独ソの兵力損耗率は何と8割近くにも達し、ドイツではホロコーストが実行されたのである。そしてお互いが都市への戦略爆撃を行うことにより、一般市民の死傷者が兵士を越えるという事態まで生じてしまう。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習 (120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』第4章を読んでくる。 ④復習 (120分) 第二次世界大戦とは何だったのか。また戦争が国際関係や社会、経済、科学技術に与えた影響を考えてみる。
10	①授業テーマ 冷戦期の国際安全保障 ― 核抑止 ②授業概要 第二次世界大戦の鬼子として産みだされた核兵器は、皮肉なことに戦後世界の安定装置として機能するようになる。1950年代から80年代までの米国の核抑止政策を学ぶことにより、大規模戦争の勃発がいかんにして抑えられてきたのか危機管理の観点から見てみよう。授業の最後に確認テストを行う。フィードバックは次回の講義中に行う。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習 (120分) これまでの授業内容を、配布資料を中心に纏めてくる。 ④復習 (120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』第5章を読んでおく。
11	①授業テーマ 冷戦期の国際安全保障 ― 地域紛争と冷戦の終結 ②授業概要 核抑止によって米ソ間の戦争が抑えられた一方で、冷戦期には地域紛争が頻発した。朝鮮戦争やヴェトナム戦争、4度にわたる中東戦争などはその最たるものである。なぜこの時代に地域紛争が勃発したのだろうか。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習 (120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』第6章を読んでくる。 ④復習 (120分) 冷戦期の地域紛争の特徴について、配布資料を参考にしながら考えてみる。
12	①授業テーマ 冷戦後の安全保障 ②授業概要 冷戦後、世界はイデオロギー闘争から解放され、90年代には平和が予想されたが、それは長く続かなかった。早くも90年代にはユーゴ紛争やルワンダ内戦など凄惨な民族紛争が頻発し、また文明の衝突や新しい戦争といった議論も行われるようになった。2001年の同時多発テロによって世界はテロとの闘いに突入し、さらにISの台頭、北朝鮮の核開発、中国の海洋進出、ロシアのクリミア侵攻など世界は混沌としてい

	る。今後の安全保障問題について概観していく。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習 (120分) 1990年の段階で21世紀の世界情勢がどのように予想されていた調べてみる。 ④復習 (120分) ジョセフ・ナイ『国際紛争』第7、8章を読んでおく。
13	①授業テーマ 戦前日本の安全保障 ②授業概要 明治時代の日本は富国強兵のスローガンと天皇制を中心とする国家体制によって、急速な近代化を進めた。戦前、日本は日清、日露、日中、太平洋戦争という戦争を経験したが、どれも異なった理由から戦われた。特に日中・太平洋戦争については、日本陸海軍部による危機管理の失敗が明らかとなっている。「戦争は悲惨なもの」という情緒的な戦争論から離れ、なぜ日本はそれぞれの戦争を行ったのか危機管理の面から考えてみる。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習 特になし ④復習 (240分) 筒井清忠編『昭和史講義』を通読してくる。
14	①授業テーマ 戦後日本の安全保障 ②授業概要 太平洋戦争の反省から、戦後日本は憲法9条を遵守し、日米同盟によって安全保障を確立する政策を選んだ。しかし日本を戦争から遠ざけたのは9条よりもむしろ日米安保であった。さらに安保条約は冷戦後も機能しており、不安定化する東アジア情勢を抑え込む有効な手段でもある。その反面、日米安保は地位協定などの問題点も抱えている。講義では日米安保から現在の日本の安全保障政策について概観する。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習 (240分) 信田智人『日米同盟というリアリズム』を通読しておく。 ④復習 (120分) これまでの講義内容を、配布資料を参照しながら纏めておく。
15	①授業テーマ まとめテスト ②授業概要 これまでの講義に対する理解や達成度を測るためのテストを課す。フィードバックは講義の最後に開設を行う。コンピテンス: E1, F1, I1。 ③予習 (240分) これまで復習で提示された課題を振り返ってみる。 復習 特になし。
関連科目	インテリジェンス概論 (RMGT1305)、安全保障論2 (RMGT3554)、ストラテジー (RMGT3555)、外交史 (RMGT3556)
教科書	ジョセフ・ナイ『国際紛争』(有斐閣)、烏賀陽弘道『世界標準の戦争と平和』(扶桑社)
参考書・参考URL	ウィリアム・マクニール『戦争の世界史』、防衛大学校安全保障学研究会編『安全保障学入門』、石津朋之編『戦略原論』、マイケル・ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』。そのほかにも授業内で適宜指定する。
連絡先・オフィスアワー	■オフィスアワー：水曜日3限、金曜日3限 ■連絡先：開講時に告知する
研究比率	■危機管理学領域での対応 グローバルセキュリティ80%、パブリックセキュリティ20% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学90%、法学10%

